

その他の風水害の種類と対策

風水害には、洪水・都市型水害(内水氾濫)・土砂災害等の様々な災害を引き起こす危険があります。それぞれの風水害の仕組みを理解し、適切な防災対策を行うことが重要です。本誌27ページから、ハザードマップも併せて御確認ください。

洪水

大雨などを原因として、河川の流量が増加し、堤防の決壊や河川の水が堤防を越えたりすることにより起こる氾濫を洪水と呼んでいます。

新座市は、大雨により大きな被害を及ぼすと考えられる荒川、柳瀬川及び黒目川が増水して洪水が発生することが想定されます。このため、堤防が決壊し、又は越水する可能性も考えられます。新座市では、河川の氾濫を予測した浸水範囲と深さを表記した「新座市洪水・土砂災害ハザードマップ」を作成しています。お住まいの地域が浸水想定区域に含まれているか、どの程度の深さまで浸水が想定されているのかを平時から確認し、災害発生に備えることが重要です。



都市型水害(内水氾濫)

都市部では、地下に浸透していた雨のほとんどが下水道に流れ込み、下水道施設の処理能力を超えて道路冠水や住宅への浸水被害が発生するという「都市型水害」が発生しています。

都市部での集中豪雨は私たちの想像以上に大きな被害をもたらす場合があるので、十分な注意が必要です。「新座市内水ハザードマップ」で想定される浸水深を確認しましょう。

- マンホールの異常を発見したら
大雨によりマンホールのふたが外れることがあります。危険ですから近寄らないでください。発見したときは、市役所へご連絡ください。
- マンホールのふたを開けないでください
雨水を排出しようとして汚水ますの蓋を開けてはいけません。雨水が汚水管に浸入すると下水道が使えなくなり、トイレ等の家庭の排水が流せなくなるおそれがあります。
- 地下施設への浸水が増えています
道路が冠水すると、水は一気に流れ込む危険があります。流れ込む水圧でドアが開かなくなることがあります。地下街等にいると外の様子がわからないので注意しましょう。

風水害後のあと始末

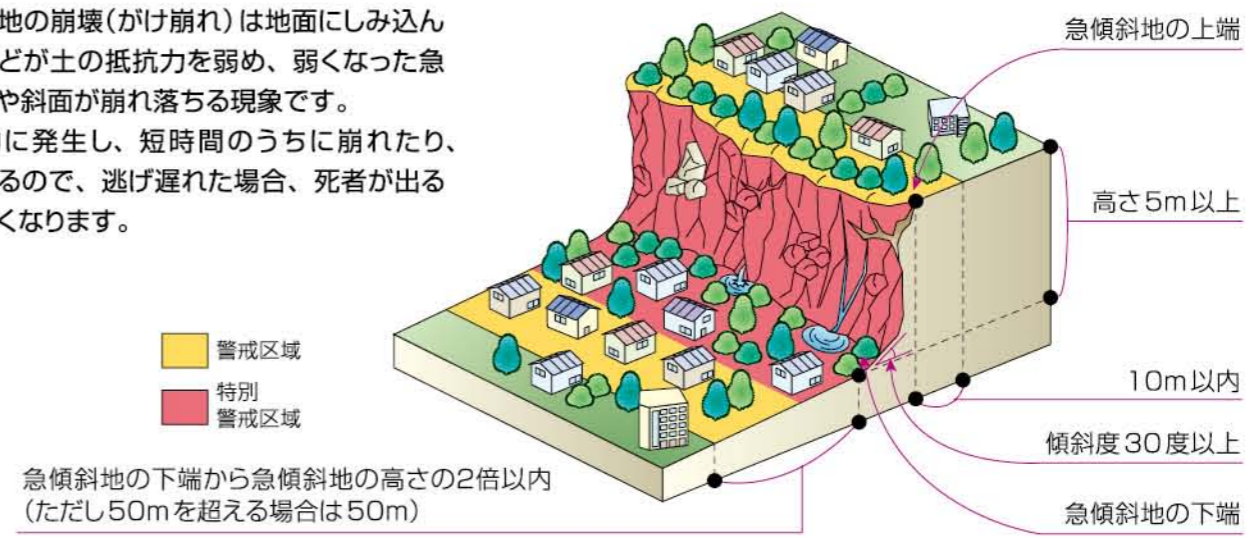
- 断線した電線はないか確認。あれば、直ちに電力会社に通報しましょう。(裏表紙参照)
- 切れた電線に近づかないように注意してください。
- 屋根瓦やアンテナなどが破損している場合など、落下の危険があるものは、除去や補修を行いましょう。
- ガスや石油など危険物の漏れ出しがあれば、周囲の人に危険を知らせ、ガス会社や消防署に通報してください。
- 浸水の後には消毒を行いましょう。特に床上浸水の場合は、畳や家具などの日光消毒も十分に行いましょう。



土砂災害(がけ崩れ)

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)は地面にしみ込んだ雨水などが土の抵抗力を弱め、弱くなった急ながけ地や斜面が崩れ落ちる現象です。

突発的に発生し、短時間のうちに崩れたり、落石があるので、逃げ遅れた場合、死者が出る割合が高くなります。



●土砂災害防止法による区域の指定

土砂災害防止法(土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律)は、土砂災害から国民の命を守るため、土砂災害のおそれのある区域を指定し、危険の周知・警戒避難体制の整備を進めています。市内の警戒区域は本誌32ページ以降の防災マップに示してあります。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

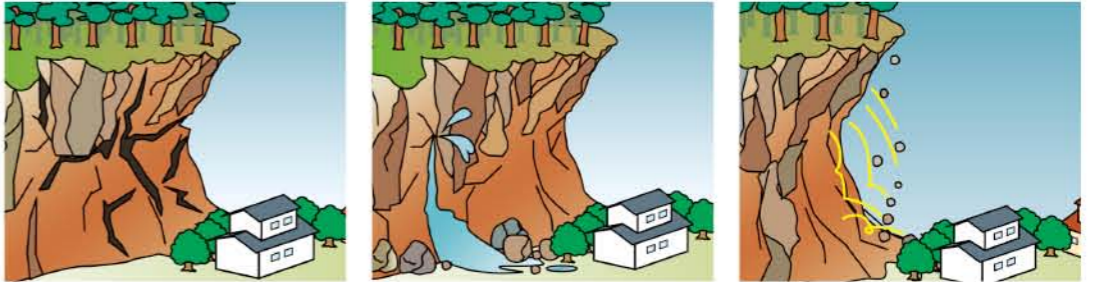
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められた区域です。指定されると、地域防災計画に基づいて土砂災害に関する危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂災害警戒区域のうち、著しい危害が生じるおそれがあると認められた区域です。指定されると、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等の措置が講じられます。

●急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の前兆現象

身のまわりで次のような現象が発生したら、すぐに近所の人や市役所に連絡し、安全な場所に避難しましょう。



- 斜面にはらみが見られる
- 斜面に亀裂ができる
- 普段澄んでいる湧き水に濁りや急傾斜地に水の噴き出しがみられる
- 湧き水の急激な増加あるいは減少・枯渇が認められる
- 斜面から小石がばらばらと落ち出す
- 斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りが聞こえる